# 一、校地

**久留島**　「では校地から始めましょう。あそこは明治８年創立の英語学校の跡で明治８年３月吉村寅太郎建立と刻んだ石門が今も立つています。」【注１】

**筑紫**　「あの学校は当時東京と九州と広島と全国に三ケ所しかなかつた。【注２】
あの石門を持つて来るといい。」【注３】

**久留島**　「その後師範学校になつて明治 18 年８月明治天皇中国御巡行になつたその記念碑が奉安殿の脇の松の下にありました。あそこが御座所跡と承つて居ります。知事官舎の方も校地内で師範時代は大きな植物園になつていました。」

**築瀬**　「それは近県に稀な植物園でどんな植物でも大抵揃っていたね。その一部に頼杏平先生屋敷地がある。」

**久留島**　「金柑の木の下にありました。後に裁縫室になりました。寄宿舎が校内にあつてあの植物園をよく散歩したものでした。頼山陽先生幽閉地と近かつた。下中町一帯が武家屋敷だつたのですね。」

【注１】明治７年（1874 年）３月官立広島外国語学校大手町一丁目）が創設、校長吉村寅太郎。同年 12 月官立広島英語学校と改称。明治 10 年２月広島県英語学校と改称、校長吉村寅太郎。同年８月下中町に移転、11 月広島県中学校と改称（『広島一中国泰寺高百年史』）。門柱の刻字については、広島県立広島皆実高等学校で現在まで３本の石柱に明治 10 年１月などの刻字を確認し、残り１本は刻字部が土中にあるため未確認。
【注２】官立英語学校は明治６年東京、大阪、長崎に設置。翌年愛知、広島、新潟、宮崎に設置とある（『広島一中国泰寺高百年史』）、広島は７ケ所の内の１つであった。
【注３】広島第一県女が校地移転した元陸軍被服支廠跡地への石門の移設を示す。

**写真、図などの資料**

下中町を校地とした学校の変遷：明治８年 10 月官立英語学校校地購入、２度の校名改称後の広島県中学校に明治 13 年３月広島県師範学校が移転同居、明治 20 年 10 月広島県中学校は広島県広島尋常中学校と改称、その後明治 24 年３月広島市国泰寺村に移転。広島県師範学校は明治 34 年７月広島市皆実村に移転（『広島一中国泰寺高百年史』.、『明治大帝行幸五十周年　創立六十周年記念　六十年回顧録　広島県師範学校』）。広島県は、文部省の認可をうけ、明治 34 年 12 月 28 日広島県女の設置を告示。広島県は広島県女に敷地、一町三反五畝【※１：13,365 平方メートル余】と建物建坪千三百二坪【※２：5,178 平方メートル余】余（ 内千五百六十九坪【※３：4,297 平方メートル余】余を知事官舎建築のためこれを国に寄付 ）を移管した（『広島県議会史』第二巻.）。広島県女は昭和 16 年４月広島第一 県女と改称。昭和 20 年８月６日原爆被爆により校舎は壊滅、翌年４月旧 陸軍被服支廠跡地に移転。

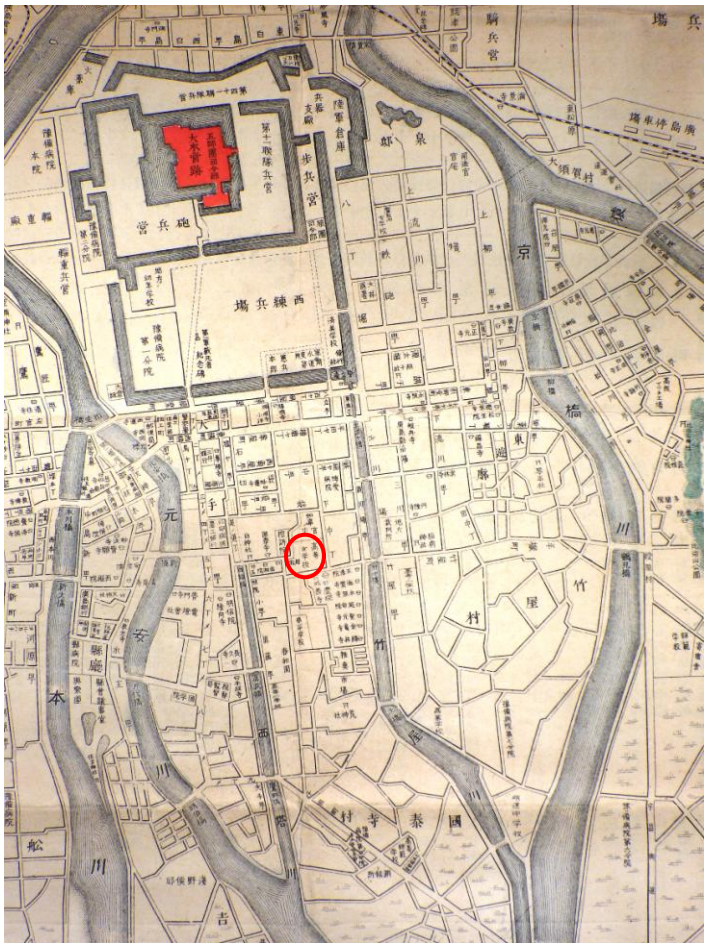


図１．明治 39 年五師団司令部大本営跡（広島城跡）付近の地図

中央の ◯ の高等女学校が広島県女の校地

出典：「広島市街新地図」明治 39 年、　瀬尾増蔵作成、広島県立文書館所蔵、長船友則氏収集資料、資料番号（200407　831)の一部を掲載

図２．　図１．の拡大図　中央やや上方の ◯ の高等女学校が広島県女の校地。校地の北側に知事官宅、西側に公訴院があった。

出典：「広島市街新地図」明治 39 年、　瀬尾増蔵作成、広島県立文書館所蔵、長船友則氏収集資料、資料番号（200407　831)の一部を掲載

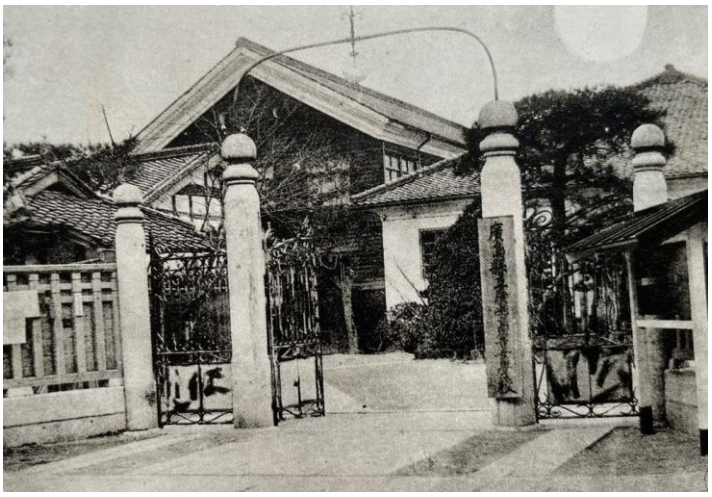

写真１．広島県立広島高等女学校の創立当時の姿を伝える正門（明治末期）
出典：皆実有朋九十年史
門柱は花崗岩製円柱で柱頭部はコケシ型、主門柱２本、脇門柱２本からなり、上方に街燈があしらわれていた。門柱は被爆し、現在広島皆実高校で記念碑としての役目を担っている。

写真２．広島平和大通りの広島第一県女原爆慰霊碑そばの記念碑
石碑の後面にある「明治十年一　寄贈　吉」の刻字＜令和７年（2025 年）撮影＞
「広島県女の被爆した門柱の歴史」を皆実有朋アーカイブズホームページに掲載中。

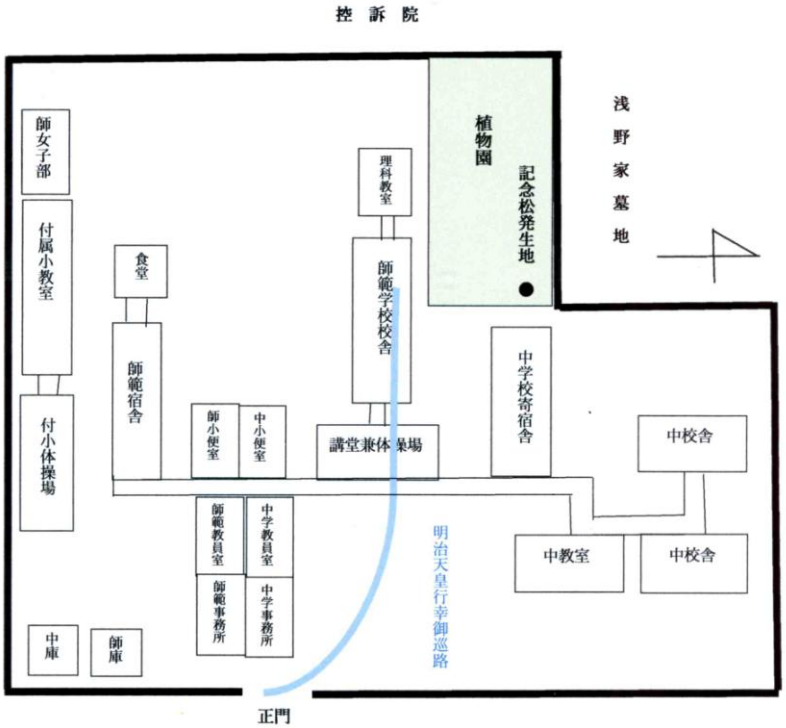


図３．明治 18 年ごろの広島県中学校と広島県師範学校の校舎平面図
出典:『明治大帝行幸五十周年　創立六十周年記念　六十年回顧録　広島県師範学校』(本書の明治天皇行幸御巡路の図を参考にして略図を作成。校地と比べ校舎面積を大きく描いている。明治天皇行幸御巡路を太い青色の線で記し、植物園の場所を緑色で示した。)

明治 13 年３月から広島県中学校に広島師範学校が同居していた。上記広島県師範学校の資料によると、両校間の境界を示すものはなかったが中学校の校舎などは図３の中学校寄宿舎から右側にあったとのことであるので、図３の主に左側に広島県師範学校の施設があったと思われる。図３から明治 34 年より広島県女が継承する広島県師範学校の施設とその配置が分かる。
植物園の場所を図３の緑色部に示す。植物園は明治 11 年広島県師範学校が竹屋町時代に設置、その後下中町に移設。当時の植物園の状況を上記資料では次のように記している。
「古色蒼然たる校舎に対し清新なる植物園の存在でした。園は規模広大にして手入れの行き届いていること、其の上色々の樹木草花の粋を集め見るからに気持ちの良い感じがしました。」
明治 34 年広島県師範学校が皆実村（現比治山本町）へ移転するに際し植物園植物の一部の移設願いを広島県女に申し出たが当時の広島県女広瀬校長は移設を許可しなかった。こののち植物園は広島県女が管理することとなった。広島県女では受け継いだ植物園を明治 38 年から本格的に活用。各学年に植物園の一角で草木を栽培させていた。
植物園の思い出を有朋１期生は次のように記述している。
「学校は中町師範学校のあとなので植物園もあり広々したもので春は花園の散歩、後に

植物園は知事、内務部長官舎になりました。」（『皆実有朋六十周年記念誌』）

大正 3 年時 1 年生であった生徒は次のように記している。

「わが校の植物園は…略…幾百種という小草木がうえられている。…略…冠木門の左には、けし・せきちく・美人草その他名も知らぬ西洋花など、とりどりに匂うて居る。…略…」（『皆実有朋八十周年記念誌』.）

上記有朋 1 期生の記述から、師範学校の植物園は明治 24 年広島県中学校が移転した跡地のほとんど（図 3 の右の中学校の建物があるあたり）に拡張していたと思われる。その後、明治 38 年頃、図 3 の右側の広島県中学校跡地あたりが知事、内務部長官舎の敷地となったため、植物園は縮小されたと推測される。

植物園は、四季の花々が咲き乱れ生徒達の憩いの場とともに植物学の授業の場であったが、大正 12 年（1923 年）に生徒数増加のため校舎の敷地となった。

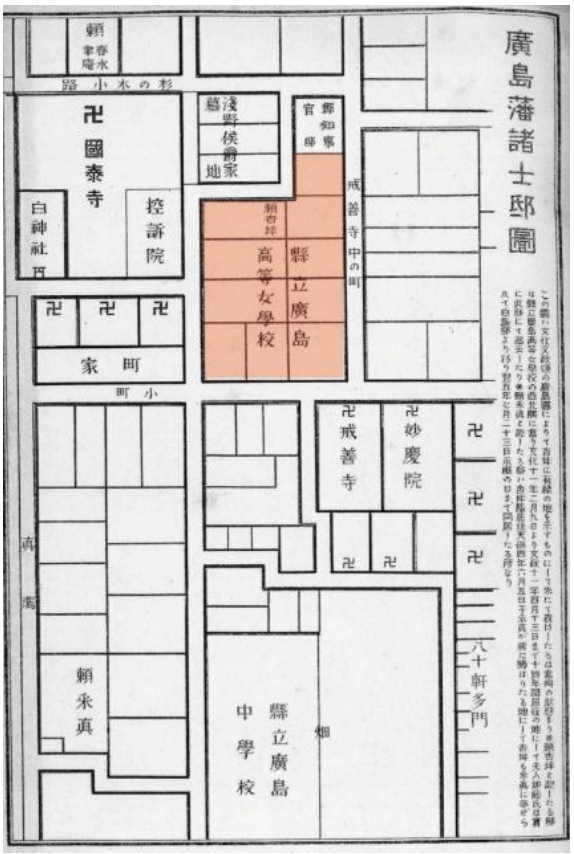


図４．明治 41 年ごろの広島県女とその周辺

出典：『頼杏坪先生傳』（見開きページの図に広島県女部分を赤く加工）

植物園の場所は図 4 の頼杏坪の旧居住地にほぼ一致していた。広島県女校地一帯は士族の邸地であり頼春水・頼聿庵、頼采真の住まい跡があった。

写真３．　　写真４．

写真３．昭和９年 11 月明治天皇御座所跡（明治 18 年８月３日行幸）に建立された記念碑　出典：『第三十五回卒業記念　広島県立広島高等女学校』昭 16（2011-015-有朋 35 期、2013-023-有朋 35 期）　建立場所は図２．の正門を入ってすぐ右側付近

写真４．奉安殿　天皇、皇后の写真や教育勅語が納められていた建物。昭和 10 年に明治天皇巡幸碑そばに建立された。第二次世界大戦の敗戦時まで広島県女の校門を入るとすぐ右手にあった。　出典：『皆実有朋九十年史』

写真５．明治 40 年第９回運動会での集団遊戯　出典：「写真で見る県女の 60 年」（2010-009-旧職員）

左奥の建物は控訴院（現在の高等裁判所）　校庭の東側から西北側を撮影

有朋１期生は当時の校地周辺について次のように記していた。

「西側は道路をへだてて控訴院法務官が法を召した姿が公邸からみうけられました。」（『皆実有朋六十周年記念誌』）

写真６．　明治 44 年の運動会　出典：『皆実有朋九十年史』
校庭では運動会などの学校行事が催されていた。　校庭の北側から南側を撮影
左の建物は寄宿舎

**まとめ**

広島市下中町に明治 10 年広島県英語学校が開校、その後校地は広島県中学校次いで広島県師範学校が継承したが移転。明治 34 年に広島県女が校地を引き継いだ。校地周辺は、士族の邸地であった。校地には広い植物園があったが、大正 12 年に生徒数増加のため校舎の敷地となった。広島県女は昭和 16 年４月広島第一 県女と改称、昭和 20 年８月６日原爆被爆により校舎は壊滅、翌年４月旧 陸軍被服支廠跡地に移転した。現在、当時を偲ぶことができる学校施設は門柱の４本の石柱のみである。（「広島県女の被爆した門柱の歴史をたずねてみませんか」を皆実有朋アーカイブズホームページに掲載中）

**参考・引用資料**

『広島第一県女新聞』創刊号　昭和 21 年８月６日発行、『広島第一県女新聞』第３号　昭和 21 年 12 月 23 日発行、『広島県議会史』第二巻 1518 頁　昭和 35 年、「広島市街新地図」明治 39 年１月　瀬尾増蔵作成　長船友則氏収集資料　広島県文書館所蔵　資料番号（200407-831）、『広島一中国泰寺高百年史』昭和 52 年、『明治大帝行幸五十周年　創立六十周年記念　六十年回顧録　広島県師範学校』昭和９年、『頼杏坪先生傳』明治 41 年、『皆実有朋六十記念誌』昭和 36 年、『皆実有朋九十年史』1991 年

二、校舎に続く